

第10回 グレタの訴え、白馬村の気候非常事態宣言 河野 仁

国連環境プログラム・排出ギャップ報告（2019年11月）によると、現在のCO₂排出量では、世界は3.2°Cの温度上昇に向かっている。気温上昇を1.5°Cの目標を達成するには、CO₂年間排出量2030年までの10年間で76%削減必要がある。これを行わないと、1.5°Cの目標は10年以内に到達できなくなる。昨年COP25でスウェーデンの16歳の高校生グレタさんはこの問題を、「家が燃えている」と危機感を持って訴えています。『IPCCの報告書には、2018年1月1日からの二酸化炭素排出量を420ギガトンに抑えると、世界の気温上昇を1.5度に抑えられると書かれています。今その数字はより小さくなっています。毎年私たちは42ギガトンのCO₂を排出していますから。現在の排出量では、残りの炭素予算を8年間で使い切ってしまう。』

日本で毎年のように起きる集中豪雨も、日本近海の海面水温が100年間に1.1°C上昇したことによって、大気中の水蒸気量が増えているのが原因です。気象庁も集中豪雨の増加は地球温暖化が影響していると言い出し、国土交通省も河川の洪水・土砂災害の増加に対して防止計画の抜本的立て直しに直面しているが、膨大な予算や時間がかかるので、すぐには対応できないようです。日本社会も非常に大きな問題に直面しています。

昨年大水害を経験した長野県の知事は水害後に気候非常事態宣言を出し、2050年ゼロカーボンを目指すとして宣言。今年1月の異常な暖冬も気候変動の影響と思われる。暖冬で年末年始のスキーが出来なくなった白馬村も気候非常事態宣言を出しました。

